

2015（平成27）年度

# 単位互換履修生募集要項

久留米信愛女学院短期大学



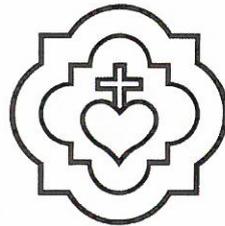
---

## 目 次

1. 久留米市内大学等单位互換協定について	-----	P 1
2. 開講する授業科目について	-----	P 1
3. 授業料等について	-----	P 1
4. 出願手続き等について	-----	P 2～P 5
5. 開講科目一覧	-----	P 6～P 7
6. シラバス	-----	P 8～P 11
7. 本学への交通機関	-----	P 12
8. キャンパス案内図	-----	P 13

---

## 学 院 章



中央の十字架は信仰を、その下のハートは愛を表わす。  
この信と愛とは学院名を表わすと共に、神と人に対する人間像の象徴  
でもある。

## 学 院 標 語

“Cor unum et anima una”

「一つの心、一つの魂」

—使徒言行録4:32—

## 久留米市内大学等单位互換協定について

2004（平成16）年から始まりました「久留米市内大学等单位互換」は、この地域の大学・短期大学・工業高等専門学校（以下「協定校」と呼びます）が相互の協力交流を通じさらなる教育課程の充実を図り、学生の幅広い視野の育成と学習意欲の向上をめざし、さらには、久留米市の発展に寄与することを目的に久留米市との連携により単位互換協定を締結し、これらの協定校に所属する学生が、他の協定校の授業科目を履修し、そこで取得した単位をその学生が所属する協定校の単位として認定しようとするものです。

現在単位互換協定を締結しているのは、久留米大学、久留米工業大学、久留米信愛女学院短期大学、聖マリア学院大学および久留米工業高等専門学校の5校です。

参加大学からは、それぞれの学校の特色ある授業科目や、他の学校にはないユニークな授業科目が提供され、学生諸君の関心や興味に応じた授業を行っています。「自分の学校では学べない分野や内容について学んでみたい」「他の学校の授業を受けることで広い考え方や見方を身につけたい」「ほかの学校の雰囲気に触れてみたい」など興味を思っている方はぜひチャレンジしてみてください。

## 久留米信愛女学院短期大学が開講する授業科目について

久留米信愛女学院短期大学では、平成27年度は別紙のとおり開講することになりました。詳しくは6～7頁をご覧ください。

## 授業料等について

授業料および履修の際の手続費用は不要です。

ただし、当該科目の履修に際して、教材費等別途徴収する場合があります。

## 出願手続き等について

### 1. 申込者の資格

単位互換協定に参加する協定校の学生で、所属する学校が許可をすれば、どなたでも受講の資格があります。

### 2. 科目履修の出願

出願を希望する学生は、**単位互換履修生・科目履修出願書**を所属校の提出期限までに提出してください。

### 3. 科目履修の許可

本学では、所属校から依頼を受け、科目履修出願書やその他の提出書類などにより選考を行い、その結果を所属校に連絡します。科目履修の許可は、その結果をもって所属校から出願者に通知されます。

### 4. 単位互換履修生証の交付

単位互換履修生証（学生証）を本学で発行しますので、受講開始までに本学にて手続きを行って下さい。（科目履修出願時と同じ写真を準備のこと）

キャンパスの入校、授業科目の受講、単位認定試験時および施設の利用等で必要ですので、必ず携帯してください。

### 5. 授業科目の履修方法、単位の修得方法

授業科目の履修等については、本学の学則および履修規程に定めています。不明な点は教務課にお尋ねください。

### 6. 単位互換履修生への連絡等

単位互換に関するさまざまな情報は協定校間で相互に交換されますので、本学又は所属校の掲示をご覧ください。

ただし、本学受講生の方の休講や授業変更、試験などの伝達事項については、すべて本学の掲示により連絡しますので、必ず本学掲示で確認してください。

### 7. 単位認定試験関係について

別添の「成績考査規程」で確認してください。

## 8. 単位互換履修生事務取扱い窓口

本学の単位互換履修生に関する事務取扱い窓口は教務課で行います。なお、窓口業務の時間は以下のとおりです。

### 【窓口利用時間】

8：30～16：20

### 【本学休業日】

土・日・祝日は窓口業務は行いません。

## 9. 授業について

### 1) 学期について

学期は、前期と後期の2学期に分かれています。

前期： 4月1日～9月30日〈4月 9日（木）～8月12日（水）〉

後期： 10月1日～3月31日〈9月28日（月）～2月13日（土）〉

※〈 〉内は、平成27年度の実際の授業期間を示しています。この期間に、前期および後期の単位認定試験が含まれています。

### 2) 授業時間について

授業は90分授業で、時間帯については以下のとおりです。

	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
本学	9：00 ～10：30	10：40 ～12：10	13：00 ～14：30	14：40 ～16：10	16：20 ～17：50

※但し、月曜日の2時限のみ時間帯は、10：50～12：20です。

### 3) 授業の休講について

授業が休講になる場合は、事前に教務課掲示で通知します

### 4) 補講について

授業が休講になった場合や、休講がなくても授業時間数が不足する場合、補講が行われることがあります。補講の日程については、事前に本学の掲示で通知しますので、必ず確認してください。

## 10. その他

1) 自動車による通学は、原則として禁止しています。事情がある場合は事務局にお尋ねください。

2) 服装は華美にならないようにしてください。

3) 学院内では禁煙です。

# 久留米信愛女学院短期大学

## 成績考査規程

第1条 成績考査は、学則第5章の規程に基づき、この考査規程の定めるところにしたがって行う。

第2条 学業成績は、筆記試験、論文、レポート、口頭試験、実技、作品等によって評定し、授業科目によっては、平素の成績を加味することができる。

2. 演習、実習、実験、実技およびこれ等に準ずると認められる授業科目については、前項の規定によらないことがある。

3. 通年授業科目の成績は、各学期の得点を平均して評定する。

第3条 考査に合格した者には所定の単位を与える。

第4条 次の各号の何れかに該当するときは、試験を受けることができない。

- (1) 履修登録をしていないとき。
- (2) 試験開始後15分をこえて遅刻したとき。
- (3) 出席時数が授業時数の2/3に満たないとき。
- (4) 無届で所定期日までに授業科その他の所定の納入金を完納していないとき。
- (5) 休学しているときまたは停学もしくは謹慎を命ぜられているとき。

第5条 成績評価は、AA・A・B・C・D・Fで行い、AA・A・B・Cを合格、Dを不合格、Fを失格・放棄とする。

2. 成績表の評価は次の基準による。

AA	90点～100点	A	80点～89点		
B	70点～79点	C	60点～69点	D	59点以下

第6条 試験中に不正行為を行った場合は、その当該授業科目を無効とする。

第7条 単位修得試験に欠席する者は、事前に単位修得試験欠席届と追試験願をクラス担任の証印を得て教務係に提出しなければならない。病欠の場合は、医師の診断書を添付し、その他の場合は保証人からの詳細な事由書または証明書を添えなければならない。これを怠ったときは、追試験の受験資格を認めない。

2. 試験当日、突然の病気または事故により受験不能となった場合は、遅滞なく（なるべく試験時間前に）一応何らかの方法で教務課に報告し、その後速やかに所定の手続をとらなければならない。

第8条 前条により追試験を願い出た場合は、考査委員会の議を経て教授会がその許否を決

定する。

2. 追試験は、1回だけ行う。

第9条 追試験によって得た成績は、80点（A）を限度とする。

第10条 第7条及び第8条により追試験が認められなかったとき、その他追試験を受けられなかったとき、または追試験において不合格であったときは、特別追試験を認めることがある。

2. 特別追試験によって得た成績は、60点（C）を限度とする。

第11条 単位修得試験に不合格の授業科目があり、再試験を受けようとする者は、所定の期日までに再試験受験願を教務係に提出しなければならない。

2. 各学期毎に再試験を受けられる授業科目数は、全受験科目の1/2以内とする。

3. 再試験は、1回限り行うことができる。

第12条 再試験の得点は60点（C）を限度とする。

第12条の2 再試験で不合格のとき、または再試験を受けられなかったときは、特別再試験を認めることがある。

2. 特別再試験については第12条を準用する。

第13条 特別追試験または特別再試験において不合格のときは、特別再履修を許すことがある。

2. 特別再履修については、第12条を準用する。

第14条 単位修得試験の結果に質問がある場合、発表から1週間以内に限り、所定様式にて質問することができる。

第15条 追試験の受験料は無料、再試験の受験料は1科目につき2,000円とする。

## 附則

この規程は昭和52年4月1日より施行する。

（中略）

この規程は平成19年4月1日より施行する。

この規程は平成21年4月1日より施行する。

この規程は平成25年4月1日より施行する。

※単位互換履修生には第15条は適用しない

平成27年度 前期 久留米信愛女学院短期大学 開講科目一覧

学科	授業科目名	区分	必修 選択	配当 年次	単位数	担当教員	履修時期・曜日・時限等				受入 人数	受入条件	開講場所	頁
							開講期	曜日	時限	授業時間				
幼児教育学科	基礎造形 I	専門	必修	1年	1	三原 信彦	前期	月	I	9:00~10:30	6		本学	P 8
								金	I	9:00~10:30				
全学科	生命と自然	基礎	選択	1年	2	生地 暢	前期	木	IV	14:40~16:10	10		本学	P 9
ビジネスキャリア学科	ジェンダー論	専門	選択	2年	2	岡部 千鶴	前期	金	I	9:00~10:30	5		本学	P 10

平成27年度 後期 久留米信愛女学院短期大学 開講科目一覧

学科	授業科目名	区分	必修 選択	配当 年次	単位数	担当教員	履修時期・曜日・時限等				受入 人数	受入条件	開講場所	備考	頁
							開講期	曜日	時限	授業時間					
幼児教育学科	基礎造形Ⅱ	専門	必修	1年	1	三原 信彦	後期			(未定)	6		本学		P11

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
基礎造形 I	1年前期	演習	1	卒業必修 免許必修・資格選択必修	三原 信彦
<b>授業の目的</b> 美術を通じた感性教育は、心理面、情緒面を含んだ総合的な人間形成のために、非常に重要な働きをする。美術教育とは“人間性の解放”であり、現代社会が抱える様々な問題、とくに子供達に与える抑圧などについて考えるきっかけとなる。本授業では、教育における美術の様々な可能性を探るとともに、幼児教育に必要な指導技術の習得を目指す。					
<b>到達目標</b> 1. 造形の基礎となる、素材の知識および表現技法を習得する。 2. 造形教育の基礎となる意義・概念を理解する。 3. 将来の造形の指導に必要な、指導技術の基礎を習得する。					
<b>授業の概要</b> 美術・造形に関する知識を身につけるための実践的な力を養う実技実習を行う。感性を磨き、情緒性と心が結びついた表現を理解していく。造形素材・画材・道具等を扱いながらその性質を理解していく。 造形表現に用いられる様々な技法に触れ、習得してゆく。					
<b>授業計画</b>					
1	ガイダンス 授業説明(ビデオ・スライド等の視聴覚機材を用いた講義は度々行う)	9	さまざまな表現テクニック② (にじみ、スタンピング等)偶然性から生まれる美について理解し絵画教育の幅を広げる		
2	「記憶を巡る絵」 記憶と認識 固定概念と人間形成について学ぶ	10	さまざまな表現テクニック③ (出来た物は後期コラージュに一部利用します)		
3	幼児期の絵画 なぐり書きから頭足人物像へ」知覚の発達段階と幼児絵画の関係を見る	11	「キャラクターを作ろう」 デフォルメ(単純化)・形式化表現について学ぶ “かわいさ”とは何か		
4	「ファンタジー絵画と潜在意識の結びつき」 象徴性の力と潜在意識等の心理と美術の関係を学ぶ	12	「文字と記号」 言語と思考の関わりから教育の可能性を探る		
5	「箱の中身はナンダロウ？」 触覚の絵、視覚以外の可能性、五感を活かした美術教育の可能性を探る	13	「幾何図形(円・三角・四角等)を構成して絵画を作る」 モンテッソーリ造形教育より		
6	粘土造形① 紙粘土等で立体造形を行う。立体造形感覚を養う。動物等を作る	14	美術館見学(注、日時等は変更になる可能性がある) 展覧会鑑賞授業を行う。		
7	粘土造形② 彩色を施し、形態と色の関係などについて学ぶ	15	講評会 作品提出 講義のまとめと反省を行う。		
8	さまざまな表現テクニック① (デカルコマニー、スパッタリング、マーブリング等)水や物理法則を用いた技法等より幅広い表現の可能性を探る				
試験・評価	提出物60% 基礎評価(受講態度等)40%				
留意事項	日常より美術書・画集等を読み、または美術館等に足を運び美術に触れることを心がける。				
準備学習 (予習・復習等)	授業で難しいと感じた技法・技術に関しては、復習し、習得に努めること。				
テキスト	「感性と表現」 学習研究社				
参考書等	「芸術による教育」ハーバート・リード著(フィルムアート社)				

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
生命と自然	1年前期	講義	2	卒業選択必修 資格選択必修	生地 暢
<b>授業の目的</b> 生命の成り立ちについて理解し、地球上に生きている生物の生活体系と、生息する自然環境について理解する。また、生息環境にどのように適応しているかについて理解する。さらに、その生息環境を脅かす要因について理解する。					
<b>到達目標</b> 1. 生命の成り立ちについて知る。 2. 生物多様性の重要性について知る。 3. 生息環境を脅かす要因について知る。					
<b>授業の概要</b> 生物とは何か、どのように成り立ったのかを知り、それら生物がどのような地球上の環境下に適応し、生活しているかを学ぶ。また、生息している環境がどのような特徴を有しているのか、どういう状況であるのかを知り、本来の生息環境でない場合、どのような影響を被っているのかを学ぶ。					
<b>授業計画</b>					
1	生物とは 1. 生物の起源 2. 生物と無生物との違い	9	生物多様性と環境適応Ⅳ 1. 河川・湖沼に生息する生物とその環境・適応		
2	生物の進化 1. 生物の形態の違い 2. 発生過程	10	生物多様性と環境適応Ⅴ 1. 海(沿岸域)に生息する生物とその環境・適応		
3	生命のゆりかご・地球Ⅰ 1. 陸上環境(極地・草原・森林・砂漠・山)	11	生物多様性と環境適応Ⅵ 1. 外洋・深海に生息する生物とその環境・適応		
4	生命のゆりかご・地球Ⅱ 1. 水環境(河川・湖沼・海・深海)	12	地球の変化と生き物Ⅰ 1. 地球温暖化による生き物への影響		
5	生命のゆりかご・地球Ⅲ 1. 大気環境(大気組成・雨・風)	13	地球の変化と生き物Ⅱ 1. 人為的開発による生き物への影響		
6	生物多様性と環境適応Ⅰ 1. 草原・砂漠に生息する生物とその環境・適応	14	地球の変化と生き物Ⅲ 1. 環境ホルモンによる生き物への影響		
7	生物多様性と環境適応Ⅱ 1. 森林・高山に生息する生物とその環境・適応	15	まとめ		
8	生物多様性と環境適応Ⅲ 1. 極地・熱帯雨林に生息する生物とその環境・適応				
試験・評価	レポート(70%)と受講態度・姿勢(30%)で総合評価する。				
留意事項	普段から自然や生物についての新聞・TVなどのメディア報道に関心をもつことが望まれる。				
準備学習 (予習・復習等)	授業で興味を持った生物や自然、環境について、書籍、インターネットで調べ、理解を深めることが望ましい。				
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。				
参考書等	講義中に随時提示する。				

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修/選択	担当者
ジェンダー論	2年後期	講義	2	卒業選択必修	岡部 千鶴
<b>授業の目的</b> ジェンダー(人間の社会や文化によって構成された性)は、我々の生き方と社会生活のあり方、すなわち、男女の個性と自己実現に関する問題である。様々な側面からジェンダー問題を考察することによって、今後の自己の生き方を見つめなおし、男女共同参画社会の形成に寄与することを目的とする。					
<b>到達目標</b> 1. 「ジェンダー」の定義等について正確に把握する。 2. 自己の価値観を「ジェンダー」の視点から考えなおす。 3. 自己と他者の差異を認め、多様な価値観を受け入れることができるようになる。					
<b>授業の概要</b> 社会生活のさまざまな領域にまたがる問題を「ジェンダー」の視点を持ちながら考える。講義をさらに深く理解するため、講義内容に関連したビデオ等を適宜視聴し、具体的な事例と共にジェンダーについて考察する。講義が主体であるが、受講人数によって、グループあるいは個人発表を取り入れる場合がある。					
<b>授業計画</b>					
1	はじめに ・「ジェンダー」という概念	9	ジェンダーにかかわる諸問題① ・育児と家事の分担 ・ワークライフバランスとイクメンプロジェクト		
2	ジェンダーバイアス① ・女であることの損得、男であることの損得 ・性別によって生じる不都合	10	ジェンダーにかかわる諸問題② ・セクシュアル・ハラスメントとパワー・ハラスメント		
3	ジェンダーバイアス② ・つくられる「男らしさ」と「女らしさ」 ・ジェンダーステレオタイプ形成過程	11	ジェンダーにかかわる諸問題③ ・デートDVとは何か ・男女間のコミュニケーション		
4	ジェンダーバイアス③ ・「結婚」と「恋愛」 ・現代の男女関係	12	ジェンダーにかかわる諸問題④ ・ストーカーとは何か		
5	ジェンダーと家族① ・結婚観の男女差 ・結婚の本質とは何か	13	ジェンダーにかかわる諸問題⑤ ・痴漢とは何か		
6	ジェンダーと家族② ・日本における離婚動向 ・夫婦間の暴力について	14	ジェンダーにかかわる諸問題⑥ ・子どもを持つということの意味 ・特別養子制度と里親制度		
7	ジェンダーと家族③ ・夫婦間の暴力が子どもに与える影響	15	まとめ ・今後の男女の関係性 ・個人が尊重される社会とは		
8	ジェンダーと家族④ ・ひとり親家庭が直面する問題				
試験・評価	出席状況及び受講態度(40%)とレポート(60%)を総合して評価する。				
留意事項	授業内での発言、ビデオ視聴後の感想文の提出などは受講態度として評価に反映されるので、積極的な姿勢を期待する。				
準備学習 (予習・復習等)	日頃から新聞を読み、「結婚」「出産」「育児」「女性労働」に関する記事を切り抜いて授業時に持参すること。				
テキスト	使用しない				
参考書等	「女性学・男性学」伊藤公雄他 有斐閣 「はじめて学ぶジェンダー論」伊田広行 大月書店				

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
基礎造形Ⅱ	1年後期	演習	1	卒業必修 資格選択必修	三原 信彦
<b>授業の目的</b> 基礎造形Ⅰの成果を踏まえ、更なる基礎技術・能力の向上を目指す。 感性を高め、心理や情緒性と結びついた表現技法を学び、様々な実技制作を実践しつつ自身の造形への理解を深めていく。 指導者として必要な応用力と創造性を身に付ける。					
<b>到達目標</b> 1. 造形の基礎となる、素材の知識および表現技法を習得する。 2. 造形教育の基礎となる意義・概念を理解する。 3. 将来の造形の指導に必要な、指導技術の基礎を習得する。					
<b>授業の概要</b> 美術・造形に関する知識を身につけるための実践的な力を養う実技実習を行う。 自主的な創造性を発展できるような姿勢を身に付ける。 現場で用いられることの多い身近な素材を用いて、表現の可能性と表現技法を探る。					
<b>授業計画</b>					
1	ガイダンス 授業説明(ビデオ・スライド等の視聴覚機材を用いた講義は度々行う)	9	リサイクルアート② 環境や消費社会、地域社会を考え、制作に結びつける		
2	「色彩」の基本と秘密 我々の心理にも関わりのある色彩の世界を探る色彩の効果をj利用した教育の可能性を考える	10	リサイクルアート③ 様々な素材を活かす発想力と感性を養う		
3	「自然」派教育 自然と人の関わりを考え絵画表現に結び付け、教育に活かすことを学ぶ	11	リサイクルアート④ 身近で安価な素材を用いて、オブジェ・玩具・日用品等制作		
4	「メディアとコミュニケーション」 現代で大きな影響力を持つ情報メディアと教育について、美術の視点から考える	12	リサイクルアート⑤ 素材加工、質感や形態を利用する造形能力を養う		
5	「身体を使って」 アクションペインティング・ドローイング 身体で表現する絵画から幼児期に重要な身体性について考える	13	「切り紙・ペーパーアート」 色紙を「折る」「切る」「曲げる」などの基本を学び、さらに変化のある装飾的模様を作る。		
6	コラージュ作り① 雑誌等の切り抜き及び様々な紙質・絵肌(マチエール)の材料を用いた平面構成	14	美術館見学(注、日時等は変更になる可能性がある) 展覧会鑑賞授業を行う。		
7	コラージュ作り② 色彩と構成についてバランス力を養う はさみやカッター等の扱いを覚える	15	講評会 作品提出 講義のまとめと反省を行う。		
8	リサイクルアート① 家庭から出るごみ・不用品・廃棄物を再利用する制作				
試験・評価	作品提出物60% 基礎評価(受講態度等)40%				
留意事項	日常より美術書・画集等を読み、または美術館等に足を運び美術に触れることを心がける。				
準備学習 (予習・復習等)	授業で難しいと感じた技法・技術に関しては、復習し、習得に努めること。				
テキスト	授業中にプリントを配布する				
参考書等	「チィゼックの美術教育」 W. ヴィオラ著 (黎明書房)				

## 本学への交通機関

### 1. 所在地

#### 【久留米信愛女学院短期大学】

〒839-8508

久留米市御井町2278-1

TEL. 0942-43-4532

FAX. 0942-43-2531

### 2. 交通機関

#### 【久留米信愛女学院短期大学】

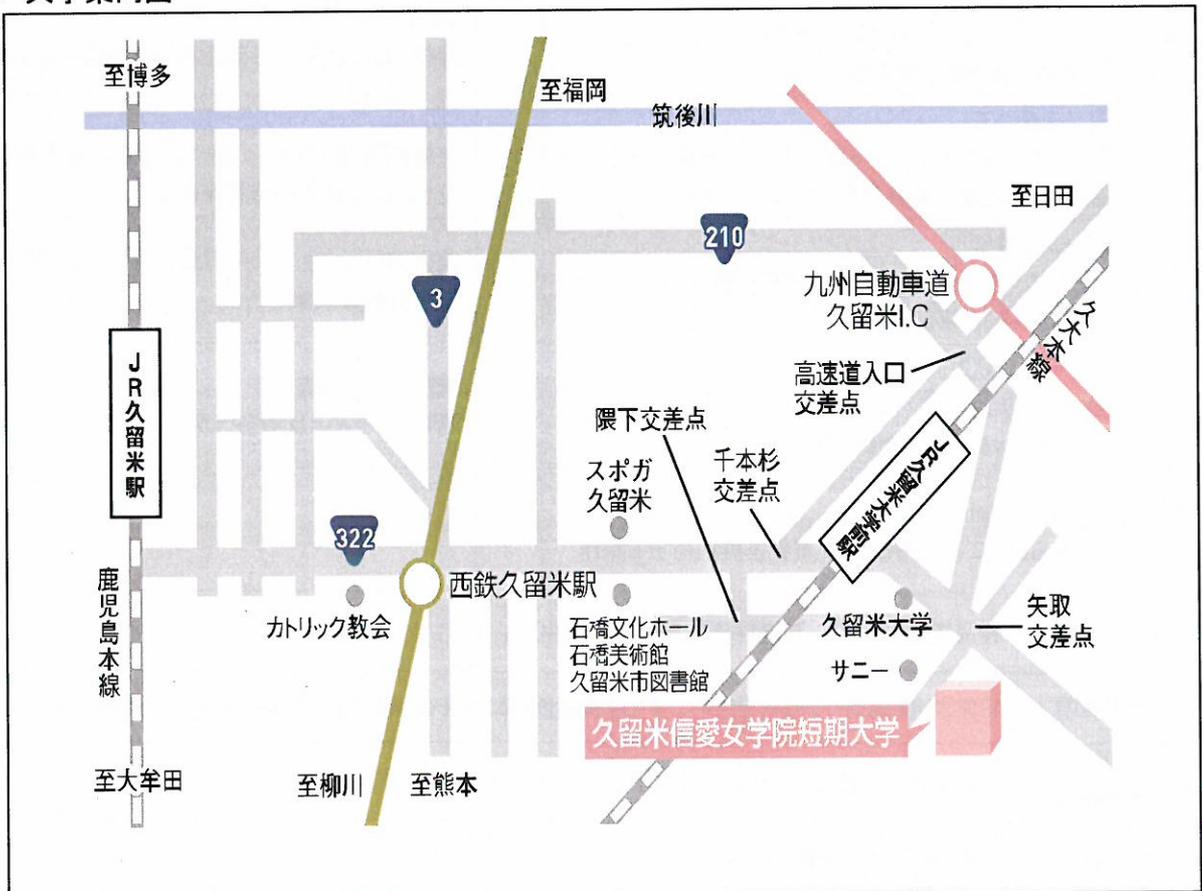
西鉄バス〈久留米信愛女学院〉行き乗車

西鉄久留米駅より15分

JR久留米駅より25分

JR久留米大学前駅より5分

### 3. 大学案内図



# キャンパス案内図

久留米信愛女学院配置図

位置：久留米市御井町2278番地の1



〒839-8508

久留米市御井町2278-1

**久留米信愛女学院短期大学**

TEL 0942-43-4532

FAX 0942-43-2531

[URL] <http://www.kurume-shinai.ac.jp>

[e-mail] [tandai@kurume-shinai.ac.jp](mailto:tandai@kurume-shinai.ac.jp)